

令和8年産

稲作情報 No. 1 十日町版

令和8年3月4日発行

十日町地域農業振興協議会

十日町市、津南町、JA 魚沼、

NOSAI 新潟魚沼支所、

十日町農業普及指導センター

LINE で情報発信中！

・水稻栽培情報
・消雪情報など

友達登録は
こちらから



健苗育成と適期移植で良質茎を確保しましょう！

- 健苗を適期に移植できるように、田植えが長期にわたる場合は播種を複数回に分けましょう！
- 今年のコシヒカリの種子の休眠は「深い」と想定されており、低温で浸種すると発芽不良を招きます。浸種水温は12℃以上を確保し、浸種期間は積算水温120℃（水温×浸種日数）を目安としましょう！
- 緑化期・硬化期はこまめな温度管理を徹底し、ヤケ苗・徒長苗を防ぎましょう！

1 育苗計画

- 高温登熟による品質低下を避けるため、コシヒカリは5月10日以降に移植日を設定しましょう。
- 適期収穫ができるよう、経営面積に応じて、播種時期を分散し、移植時期の幅を広げましょう。
- 近年は高温で苗の生育が早まる傾向があります。健苗を移植するため、表1のように移植期から逆算して、浸種・播種の計画を立てましょう。

表1 適正な育苗スケジュールのイメージ

○: 播種日、△: 移植日、□: 出穂期

育苗様式	4月		5月			8月
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
稚苗 加温出芽のハウス又は露地	浸種	催芽	出芽	緑化	硬化	出穂期
	4/15	4/27	○		△	8/5
中苗 加温出芽の露地	浸種	催芽	出芽	1葉期	2葉期	3葉期以降
	4/13	4/25	○		△	8/10

注 稚苗は標高100~200m、中苗は標高200~400mを想定

2 浸種から播種までの作業のポイント



昨年、暦に合わせて播種した人は、消雪遅れにより田植えが遅れ、育苗期間が長くなってしまい、老化苗が多く発生しました。上記「適正な育苗スケジュールのイメージ」を参考に田植えまでの期間を想定して、育苗計画を立てましょう。

種子消毒	<p>種子伝染性病害などの発生を防止するため、種子消毒を必ず行いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学農薬による種子消毒は効果が安定します。温湯消毒の単独処理では、防除効果が十分に得られない場合があるため、温湯消毒+微生物農薬(催芽時浸漬)の体系処理を実施しましょう。 ・細菌性病害(褐条病やもみ枯細菌病、苗立枯細菌病)に対しては、種子消毒だけでは効果が安定しないため、カスミン粒剤・液剤との体系防除を実施しましょう。
------	--

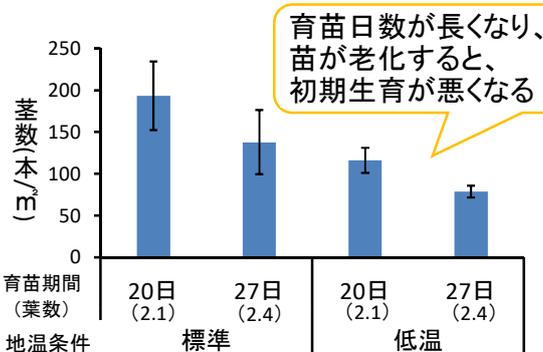
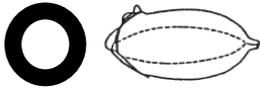


図1 稚苗の育苗期間が初期分げつの発生に及ぼす影響(本田試験)(コシヒカリ、移植20日後調査、H25、26年の平均値、作研七) 地温条件は移植後11日から10日間処理、標準:22.6℃ 低温:19.8℃

出穂期を分散させるには、浸種から時期をずらして播種をすることが効果的です。



<p>浸種</p>	<p>適切な水温・期間で浸種し、発芽に必要な水分を種子に吸収させて、発芽揃いを良くしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水量は種子容量の2倍以上（種子1kgに対して3.5ℓ以上）を用意しましょう。 ・令和7年産のコシヒカリBL種子の休眠は「深い」と推定されるため、水温は12～15℃を保ち、積算温度120℃を終了の目安としましょう。 ※必ず水温計を設置し、初期水温を確認しましょう。 ※浸種開始時の水温が10℃未満だと、著しい発芽不良（発芽揃いが悪くなる）を招きます。水温15℃以上だと、積算水温に達する前に発芽し、出芽ムラが生じます。 ※浸種を早く始めすぎて浸種期間が長くなると、正常に発芽しない恐れがあります。 ※温湯消毒種子は発芽が早まりやすいため、浸種中の種子の状態をこまめに確認しましょう。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">低温で浸種（5℃・22日間）</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">適正温度で浸種（13℃・8日間）</div> </div> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 低温浸種に比べて発芽が揃ってるね！ </div>  <p>図 浸種別のコシヒカリ 播種7日後の様子（佐渡農業技術センター2020年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の更新は、種子消毒の方法別に以下により行いましょう。 温湯消毒：2日に1回程度（雑菌が繁殖しやすいため） 浸種期間に薬剤消毒：前半4日間は水を更新せず、その後必ず2～3回水を更新 ※浸種後半は、種子の呼吸が活発になるため、毎日水を更新しましょう。 														
<p>催芽</p>	<p>30℃で1～2日を目安に、80%以上の籾がハトムネ状態になったら催芽を終了しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30℃を超えると細菌性病害、30℃を下回るとばか苗病の発病を助長します。 ・籾袋の外側だけでなく、中心部も確認しましょう <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>適正なハトムネ状態 (籾が膨らみ、芽が1mm程度確認できる)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>伸ばしすぎ！ (播種時に芽が傷つきます)</p> </div> </div>														
<p>はしゅ播種</p>	<p>適正な播種量で健苗を育成しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・播種量が多すぎると苗は細く、徒長しやすくなるので、適正な播種量としましょう。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">育苗様式</th> <th colspan="2">1箱当たり播種量 (g)</th> <th rowspan="2">10a 当たり必要箱数 (50株/坪)</th> </tr> <tr> <th>乾籾</th> <th>(催芽籾)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稚苗</td> <td>130～140</td> <td>(160～175)</td> <td>18～20</td> </tr> <tr> <td>中苗</td> <td>80～100</td> <td>(100～125)</td> <td>20～25</td> </tr> </tbody> </table>	育苗様式	1箱当たり播種量 (g)		10a 当たり必要箱数 (50株/坪)	乾籾	(催芽籾)	稚苗	130～140	(160～175)	18～20	中苗	80～100	(100～125)	20～25
育苗様式	1箱当たり播種量 (g)		10a 当たり必要箱数 (50株/坪)												
	乾籾	(催芽籾)													
稚苗	130～140	(160～175)	18～20												
中苗	80～100	(100～125)	20～25												

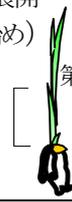
【参考】育苗期に発生しやすい障害・病害

障 害	原 因	主な対策
出芽不良	①浸種時の低温や積算温度不足 ②催芽時の温度ムラ ③出芽時の過高温や過湿	①出芽器内の温度をこまめに確認 ②80%以上の籾をハトムネ状態にする。 ③床土の透水性を改善
ムレ苗	①床土のpHが高い(アルカリ性)、透水性が悪い ②厚播き ③急激な温度変化(8℃以下の低温とその後の高温)	①症状が悪化する前に早めの移植 ②床土のpHや透水性に留意する。 ③厚まきや徒長を防止する。 ④急激な温度変化を避け、夜温を8℃以下にしない。
ばか苗病	①種子伝染 ②病原菌に汚染された種子予措器材の使用 ③罹病植物残渣(籾殻、米ぬか等)を含む粉じんの付着	①化学農薬による種子消毒または温湯消毒+生物農薬の体系処理 ②器材の消毒 ③種子を稲わら、籾殻等と同じ場所で保管しない。

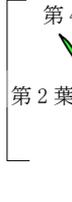
3 育苗期間の管理

～移植前の弁当肥で根の改善を高めよう～

(1) 稚苗・加温出芽・ハウス育苗の場合

期間	温度	温度管理・被覆、水管理	終了めやす	追肥(弁当肥)
出芽期 2～3日間	30℃	○播種時に十分かん水 ○緑化に移す際、温度の急変を避ける。 ➡白化苗防止	出芽長 0.5～1.0cm 	注目! ①移植4～5日前 (N1.0g/箱) 葉が黄化してからの追肥は効果がないため、田植えまで日数がかかる場合は、播種 20 日後頃を目安に一回追肥しましょう!  葉が垂れ下がっている 色が淡く細長い 第1葉 鞘長 5 cm 悪い苗の例
緑化期 2～4日間	昼 20～25℃ 夜 15～18℃	○10℃以下にしない。 ➡苗の伸長停止防止 ○被覆資材で被覆 ○午前中の早い時間帯に1日1回かん水 ○好天日、高温時では換気を十分に実施 ○緑化期間を長くしない。➡徒長苗防止	第1葉が完全展開 (第2葉が出始め) 第1葉 鞘長 3.5～4.0cm 	
硬化期 13日間程度	昼 15～20℃ 夜 10℃以上	○8℃以下、20℃以上にしない。 ➡ムレ苗、苗ヤケ防止 ○基本は被覆しない。 ※降霜が予想される場合のみ被覆 ○硬化期前半は日中のみハウス開放、1日1回かん水 ○硬化期後半は日中、夜間ともにハウス開放、1日2回かん水(2回目は午後2時までに乾燥程度を見ながら)	草丈 12 cm 第2葉 第1葉 鞘長 3.5～4 cm 稚苗(2.1葉) 	

(2) 中苗・加温出芽育苗の場合

期間	温度	温度管理・被覆・水管理	終了目安	追肥(弁当肥)
出芽期 1.5日以内	30℃	○稚苗の出芽期と同様 ※稚苗より加温日数は短くする	出芽長 0.5cm 未満 	注目! 基肥で窒素 0.5g/箱を施用した場合 ①1.5～2.0 葉期 (N1.0g/箱) ②移植4～5日前 (N1.0～2.0g/箱) ※基肥窒素量に応じ、追肥回数と量を加減する。
1葉期 10日間程度	昼 20～25℃ 夜 15～25℃	○出芽期後～1葉期までは稚苗の緑化期と同様 ※第1葉鞘長を短く抑え、第2・3葉の伸長を抑制する	第1葉 鞘長 2.5～3.0cm 	
2～3葉期 20日間程度	昼 15～20℃ 夜 10～15℃	○稚苗の硬化期と同様 ○3葉期から徐々に外気に慣らす。	草丈 15cm 中苗(3.5葉) 	

(3) 加温出芽・露地プール育苗の場合

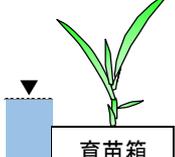
ア 育苗場所の準備

- 温度変化の少ない場所を選定し、強風が当たりやすい場合は防風ネット等で風対策を行いましょう。
- 置き床は均平にしましょう(許容高低差:2cm 以下) ⇒ 生育ムラの発生防止

イ 出芽期～緑化期の管理 (温度・水管理は上記ハウス育苗と同様)

- 育苗箱を並べる際、低温や強風及び強光の日を避けましょう。 ⇒ 急激な温度変化を避ける
- 湛水は緑化期になるまで基本的に行いません。降雨後は排水しましょう。
- 降雨後、被覆資材に雨水が停滞した場合は直ちに排水しましょう。(晴天時、レンズ効果で温度上昇を招くため)

ウ 硬化期の水管理 (温度管理は上記ハウス育苗と同様)

1.5 葉期 水位  育苗箱 ○プール内で一番低い位置の育苗箱の床土面まで湛水	1.5 葉期以降  育苗箱 ○草丈の1/2程度まで湛水し、浅い部分で箱の1/3以下まで減水したら再度湛水。 ○プールへの湛水は早朝に行い、日中に水温上昇を図る。 ○低温時は一時的に水位を上げ、気温が上がったら通常の水位に戻す。	追肥時 (粒状)  育苗箱 ○床土面以上に湛水する。 ○施用後2日間は落水しない。 ○液肥の場合は、肥料ラベルの注意事項をよく読んで使用しよう。	移植 2日前 落水し、育苗箱を軽くする。
--	--	--	-----------------------------------